

令和 5 年(2023 年) 4 月 1 日

令和 4 年度研究開発報告

住所 長野県長野市大字南長野幅下 692-2
管理機関名 長野県教育委員会
代表者名 教育長 内堀 繁利

令和 4 年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発実施内容を、下記のとおり報告します。

記

1 事業特例校名・類型

学校名 長野県篠ノ井高等学校
学校長名 濱 勝彦
類型 地域魅力型

2 令和 4 年度研究開発実施概要

- (1) 探究フィールドの研究：「しあわせ信州創造プラン 2.0」及び SDGs をベースに設定した 8 つのフィールドに基づいて探究活動を進めた。「私たちが暮らす千曲川・犀川流域」が活動エリアではあるが、地域が抱える課題は県内および県外のいずれの地域にも当てはまるものであり、そこから自らの進路希望や学びたい学問等に結び付けられるよう取り組んだ。特に 1 学年における取組が学年を経るにつれ、自分事として生徒がより取り組めるよう、各学年でのテーマと計画と進路学習の結びつきを確認した。
- (2) コンソーシアムの研究：地元大学、自治体とのコンソーシアム構成に先立ち、地域の企業、NPO、個人事業者など、生徒の学びをサポートしてもらえる方のリストアップを行った。さらにコロナ禍の対面での連携ができない環境下でオンラインを有効に活用し、県外大学の教授との連携を試みた。
- (3) 評価の研究：観察による評価、授業記録、ルーブリックによる自己評価、相互評価、パフォーマンス評価など評価のあり方について研究した。
- (4) 学校設定教科・科目の検討：「社会と情報」と「総合的な探究の時間」は別々に設定することとしたが、「社会と情報」の授業を通してデータの活用等の探究活動にも利用できるスキルを学ぶことができた。
- (5) 本校独自の国際交流については、本年度は国内外の新型コロナウイルス感染状況に鑑み中止としたが、令和 4 年度の派遣予定者は、都内での研修を行い、海外研修に代わる機会とした。

(別紙様式 5)

3 教育課程の特例の活用 (□で囲むこと)

- ア 学校設定教科・科目を開設している
- イ 教育課程の特例の活用している

4 コンソーシアムについて

(1) コンソーシアムの構成団体

長野市、千曲市、長野県 NPO センター、信州大学、高沢産業株式会社、LINE 株式会社、篠ノ井高等学校

(2) 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
6月	長野市、千曲市と連携し、地域商店街でフィールドワークの実施
7月、8月	長野市公共マネジメント課と連携し、地域課題についての学習会 (感染状況の悪化により中止)
10月	長野 NPO センターと連携し、SDGs カードゲームの実施
3月	1・2年合同の課題発表会の実施。 (感染状況に鑑み校内のみで実施)

5 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①篠ノ井地域でのフィールドワーク			1	1	1	1						
②総合的な探究の時間における探究学習			1	1		1	1	1	1	1	1	
③千曲川流域でのフィールドワーク						1	1	1				
④「社会と情報」において RESAS を活用した探究学習			1	1	1	1	1	1	1	1	1	

(2) 実績の説明

①篠ノ井地域探究

- ・ 地元商店街でのフィールドワークで地域の現状を調査し、抱える課題を把握した。
- ・ 信濃毎日新聞社から講師を招き、新聞の読み方を教わるとともに、効果的な取材方

(別紙様式 5)

法や人の心を動かす記事の書き方について学習した。

②長野市との連携

- ・コロナ感染拡大により中止

③千曲川流域探究

- ・「千曲川を知る」グループとともにフィールドワークを実施した。

④企業訪問

- ・協力企業 12 社に 1 学年が分かれて訪問した。生徒は各企業の理念や地域貢献活動等について質問し、まとめた内容を発表した。将来の就職を見据えた企業理解を進めることができた。

⑤沖縄リサーチ（修学旅行の行き先変更に伴い、広島リサーチに変更）

- ・広島をフィールドに平和学習を実施。「はだしのゲン」を視聴し、感想をまとめた。

⑥SDGs 学習

- ・長野 NPO 法人センターと連携して、SDGs カードゲームを実施した。クラスで団結して、積極的にアイデアを出し合い、「地域創生」の課題解決方法を学んだ。

⑦RESAS

- ・コミュニケーションズ・アイから講師を招き、地域が抱える課題をテーマに、石川県羽咋市の取組について、RESAS のデータ等を用いて学び、課題解決の具体的な取組を知る機会とした。ICT 機器の活用、データ活用を通しての見方、考え方を学ぶ機会となった。

⑧探究学習

- ・自分の進路に関係する課題について SDGs と関連付けながら自分なりにその課題点をあげ、解決策を考えた。
- ・子ども食堂や保育園、民間企業、病院等を訪問し、それぞれが抱えている課題の発見に努めた。
- ・街頭でインタビューやアンケートを依頼し、分析、考察を行った。
- ・全員がまとめた内容を発表し、クラス内での優れた発表については学年全体で発表した。

(3) 研究開発の実施体制について

校内に探究学習係を設置し、進路指導、教科「情報」主任、学年、同窓会等と連携を取りながら研究を進めている。学校評議員である信州大学の先生方からもアドバイスを受けている。令和 4 年度は探究学習小委員会を進路指導の中に設置し、探究活動と進路指導の二つの歯車が連動的に機能するよう運営を行った。

(4) 次年度以降の課題及び改善点

小委員会の設置により、計画的な運営が可能になった。進路指導との連携や学年探究学習担当との調整が機能的に行う体制ができ、今後の探究学習に一定の計画性が持てるようになった。

今後は、各学年が取り組んだ活動を蓄積し整理していくことや学習を支援してくれるネットワークをさらに広げていくことが必要である。一方、様々な団体からの企画が集まり、生徒にとって有意義な探究活動につながるよう、精選していく必要がある。

(別紙様式5)

【担当者】

担当課	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課	T E L	026-235-7435
氏 名	卯之原 智也	F A X	026-235-7495
職 名	指導主事	e-mail	kyogaku-koko@pref.nagano.lg.jp